

3年前に現在勤務する野田中学校に赴任しました。校長室を眺めました。書棚には、様々なものが並んでいます。ふと、「中教研」の文字が目にとまりました。県中教研の周年記念誌を見つけました。20周年記念誌、30周年記念誌、40周年記念誌、50周年記念誌と並んでいます。10周年記念誌は、見あたりませんでした。

そのときには、自分が県中教研事務局の仕事に携わることがわかっていました。50周年記念誌を手に取りました。大事なアルバムを開くように、一枚一枚とページをめくっていきました。存じ上げている先輩方がたくさん出てきます。そこには、一人の教諭として中教研に参加していたときには、知る由もなかった苦労や活動の足跡が出ています。

いろいろなことがわかりました。同時に身の引き締まる思いがしました。何千という会員を抱える大きな団体を動かすエネルギーを垣間見ることができました。これは、心してかからなければならぬ。そのくらい、50年を超える歴史は重いものでした。先輩方が築き、代々引き継いできたものが、自分の肩にのしかかる感覚がありました。

あれから月日が経ち、今年度は会長職を務めることになりました。そして、創設60年の節目を迎えることになりました。これも縁です。私は、中教研に育てていただいた人間です。恩返しをしなければなりません。それは、変わりながらも、より魅力的な中教研にしていくことです。変革期にあるこの団体をより良い方向へと導いていかなければなりません。

そのためには、県内2600名の会員の先生方の声に耳を傾け、各支部長や各専門部長と協議を重ねなければなりません。記念誌を読むと、何度も改革期を経てきていることがわかります。その度に、協議を重ねたはずです。そうやって、この団体は発展を遂げてきたのだらうと思います。

私は、これからもいつまでも、人を育てる中教研であり続けたいと願っています。授業を通して互いに話し合える会でありたいと思います。授業の大切さは、今も昔も変わりません。授業改善が言われ続けている中で、私たちの授業は、よくなっているのでしょうか。生徒にとって、わかる授業、魅力的な授業になっているのでしょうか。今一度、振り返ってみる必要があると考えます。

では、どうすればいいのでしょうか。先生方にとって、授業について考え、授業を鍛える場として、中教研をもっと活用できないでしょうか。互いに刺激し合える機会にできないでしょうか。これからは、会員である先生方が、こんな中教研にしたいと思えるような運営を考えていかなければなりません。中教研は、会員の先生方、お一人お一人のものです。今まで以上に、福島県の中学校の先生方にとっての拠り所となれるような組織にしていく必要があります。

中教研は、今日に至るまで、福島県教育委員会、各教育事務所、各市町村教育委員会、校長会をはじめ関係機関に支えられて、ここまでできました。これからも、次の10年に向けて、力強く歩みを進めるために、お力添えをいただければ幸いです。

この度の記念誌の発刊にあたり、玉稿をお寄せいただいた皆様、本誌の企画・執筆・編集にあられた各支部、各専門部の役員・会員並びに事務局員の方々のご尽力により、60年の歩みを形として残すことができたことに感謝いたします。ありがとうございました。

今月に発刊となった福島県中学校教育研究会「創設六十周年記念誌 中教研六十年のあゆみ」の原稿である。タイトルを「人を育てる中教研～次の10年へ～」とした。